

(2) 冬型感染症のシーズン別報告状況

平成30年シーズン（平成30年6月下旬～令和元年6月下旬）の特徴。

インフルエンザは、昨年より遅く12月中旬から患者報告数が増加し、1月下旬に流行のピークとなった。

感染性胃腸炎は、12月までは少ない報告数であったが、1月以降は例年並みに増加し、1月下旬に流行のピークとなった。その後、減少したが再び増加し、4月下旬と5月下旬にピークとなった。

（水痘は、患者が年間を通して報告されたので、今年除外した。）

	東部	中部	西部	県計
平成25年シーズン	2,509	1,631	2,471	6,611
平成26年シーズン	2,992	2,560	2,956	8,508
平成27年シーズン	3,472	1,635	2,743	7,850
平成28年シーズン	2,376	1,735	2,165	6,276
平成29年シーズン	4,085	3,500	4,508	12,093
平成30年シーズン	2,523	2,038	3,106	7,667
6年シーズン平均	2,993	2,183	2,992	8,168

	東部	中部	西部	県計
平成25年シーズン	2,817	1,640	1,388	5,845
平成26年シーズン	2,478	1,808	1,153	5,439
平成27年シーズン	3,253	1,652	1,672	6,577
平成28年シーズン	2,892	1,678	1,750	6,320
平成29年シーズン	2,725	1,677	1,771	6,173
平成30年シーズン	2,482	1,769	1,974	6,225
6年シーズン平均	2,775	1,704	1,618	6,097

※当年6月下旬～翌年6月下旬

